

# 麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 総合科学部門

職階 教授

氏名 石井康夫

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

# 1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

英語教育について：基本的に各学科のDP/CPに適合することを強く意識しています。基礎科学英語では、獣医学部3学科に関連する基本的な語彙、動物の身体の仕組みや機能を英語で考えます。英作文表現においては、短文による獣医療・生命科学・健康に関する表現の実践を目標とします。講読関連においては、学科に関連する専門的な文献を「読める」力を養うことを目標とし、いわゆる一般的な英語学習ではない、学科教育に密接にかかわり、また技能的に「～できる」ことを到達目標とすることを意識して授業に臨みます。教員としての責任は、この科目の目標への実践にあると考えています。

獣医学科の特論・ゼミについては、オンデマンドでのゼミを実施しています。研究科における「動物倫理学特論」「動物文化史特論」については、動物と人間の関係、歴史的背景、獣医動物倫理に関する内容をゼミで展開することを責務としています。これは社会に出てからの人間としての道徳観の涵養に結びつくものと考えています。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
基礎科学英語	獣医学科	必修	1	33
基礎科学英語	獣医保健看護学科	必修	1	79
基礎科学英語	動物応用科学科	必修	1	35
英作文表現	獣医学科	必修	1	57
英語講読	動物応用科学科	必修	1	35
英語講読Ⅱ	動物応用科学科	必修	2	85
英作文表現Ⅱ	動物応用科学科	必修	2	57
獣医看護実践英語	獣医保健看護学科	必修	1	79
英語特別演習	動物応用科学専攻（博士前期課程）	選択	1	32
動物文化史特論Ⅰ	動物応用科学専攻（博士前期課程）	選択	1	6
動物倫理学特論Ⅰ	動物応用科学専攻（博士前期課程）	選択	1	5
専門ゼミ	動物応用科学科	必修	3	3
卒業論文	獣医学科	必修	6	5
卒業論文	動物応用科学科	必修	4	1
獣医学特論Ⅰ	獣医学科	必修	5	5
獣医学特論Ⅱ	獣医学科	必修	6	5

## 2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

英語教育において重要なことは、学んだ内容を確実に「身につけることができる」よう、ある程度余裕をもって学習させることであると考えます。基礎科学・講読・表現の領域において、特に履修者が苦手とするものは何かを考え、履修の際に困難を伴わないよう、学習させる必要があります。そのためにも資料作りが最も重要なものの一つであると常に考えています。授業現場でどのような教材を目にするのか、提供されたものが学生にとってはすべてでもあります。そこでのモチベーション、修得しようという意識が瞬時に高まるようにしなければなりません。これは予習・復習の段階で影響がでることです。その意味において、資料がまず第一に重要である、とすることが一つの理念です。

動物文化史や動物倫理学では、人間と動物の関係を通じて、獣医療、動物との共生、人間社会の在り方などを考察できるような人間教育を目指しています。

履修者は「理解できた」「使えるようになった」「実際に試験や課題にも取り組むことができた」という達成感が重要です。履修者にとって理解できない、のみこめない、取り組めない、ということほど苦痛なことはありません。円滑な理解を導くことができるのは、教員の授業運営にかかっています。履修者の「わかった」「できる」という達成感や満足感を授業の楽しみに高揚させることが教員の務めであり、もう一つの理念となります。

学校教育は人間育成の場所であります。教員と教育内容は、究極的には「人を成長させる」機会と方法です。人間を人間として少しでも成長させることができれば、それが真の教育と考えます。人を育て、人間として成長させることが科目・授業を通じた最も重要な教育理念であり、最大の目的と考えています。

### 3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

・重要視していること：履修者の顔・表情を見ること。わからない、早すぎる、ついていけない、おもしろくない、という気持ちは学生の表情にでる。これを見過ごさないようにすることが大事。うなずいているから満足でしているわけでもない。授業時の履修者の姿勢について授業進行時に確認をすることは重要視することだ。

・次に重要視することは、言葉での説明。評価のこと、内容、すべてが説明に拠る。履修者は聞いていない者、関心をよせない者が多くいる。履修者に理解させるには、何よりも資料自体の書かれた言葉と、授業時の教員の肉声である。説明をいかに丁寧に、わかりやすく「伝える」か、ということ重要視している。

・教育の目標と目的は、前掲のとおり、各科目への到達教育目標に含まれている。英語については、「身につける」「記憶に残る」「理解する」ことが最も重要である。語学においては実践性が必要であり、修得の目的でもあるのだから「表現が使える」「読解で内容を理解する」「自分の見解を英語で述べる」ことが目標となる。

・特徴：教育の特徴として、これは自身の年齢・加齢により変化してきたことだが、のんびりと余裕をもった教育・講義をすること。履修者にある程度「楽しんで」もらうこと。これを重要視している。これらは授業と内容に円滑に入り込んでいくためのひとつの方法論である。

・新たに学習した内容については、先述のとおり「残ること」を重要視している。特に人間形成を踏まえた倫理観・道徳観を涵養するためにも、学んだ内容が卒業後に活かせるよう、「自分の見解」をしっかり認識してもらうような授業づくりをこころがけている。最も重要なことは、自分自身で課題内容を「考える」ことにある、そのためには特にゼミ教育については、自身の見解を発表させる工夫を常に考慮している。

#### (1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

英作文表現IIにおけるグループ表現学習、また研究科MA科目の動物文化史特論、動物倫理学特論においては、テーマ項目に即したディスカッションを導入しています。スライドの内容には質問項目が多いので履修者に各人には指名して意見を聞き、また他の履修者の意見も同時に摂り入れるなどして授業内容に反映させるようにしています。

#### (2) ICTの教育活用

無

ICT活用については科目の性質上特に導入していません。

## 4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

### (1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

すべて教材はオリジナルなものを使用しています。講義科目はスライドについて視覚的に理解しやすいものを多用しています。

### (2) 学生の理解度の把握

A

英語については提出物を絶やさないようにしています。復習のためには授業内提出物が有効であると思っております。ゼミについては、内容をある程度反復・重複させることにより、記憶の中に留めてもらうようにしています。

### (3) 学生の自学自習を促す工夫

A

毎回の授業資料は、実際の授業で消化する以上の内容になっており、授業外の時間をこれに充てるよう指導しています。また、授業内提出含め、授業外への課題を出すことにより、復習の時間を設けるようにしています。

### (4) 学生とのコミュニケーション

A

授業内容・資料等についての質問は随時受け付けており、メールでの対応を主に実施しています。実際にメールの対応数は多く、ほぼ毎日の状態です。授業終了後の質問はさほど多くはありませんが、試験が近いと質問事項も増えてくるので、疑問のないよう、理解不足のないように対応するようにしています。

### (5) 双方向授業への工夫

A

大学院研究科の授業については特に双方向的な授業を実施しています。細かい疑問点や、こちらから聞きたいことについて履修者各人の意見をしっかり聞くようにしています。

### (6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

自分の業務は、国試等国家試験にはほぼ関与しないと思います。

## 5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

### (1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

アンケート結果については、毎年意識しています。これを次の授業へと反映させるように、まずはシラバス内容も改訂、実際の授業では予習復習の時間を増やすようにしています。結果資料は増えていくわけですが、より丁寧に、授業時間外の「自主的な学習」を促進させるためには、オリジナルの資料はどんどん増えていくことになります。

### (2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

毎年のことではありますが、授業資料は改訂をしています。重要なことは残し、新たな項目を常に導入しています。その分復習には反映できるようにもしています。

### (3) (2)を踏まえた次年度の取組

次年度については、提出物などをさらに増やしていきたいと考えています。最近「授業内提出」を頻繁に実施するようにしています。これは当日と前回の内容への振り返り学習であり、これも回数を増やしていきたいと思えます。

## 6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

### (1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

英語の「講読」について特に重視しているのは、学生の高等学校までの習熟度を考慮した内容に改訂していくことです。高等学校までに受けてきた英語教育は個人により多様性があります。文法内容の基礎がしっかりしていない人が相当数になるので、授業進度と資料レベル、授業デザインについては、学生の力にもう少し寄り、且つクオリティをあげる授業を展開すべきと考えています。

## (2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組 に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

学生による授業評価アンケートを見ると、理解はできている一方で、自習の時間はかなり少ないです。しかし現実には成績はすべて高いかというところでもないので、自習に向けた指導を強化する必要があるという評価と捉えています。教員によるヒアリングを2024年授業について実施しました。下位の成績者が多かったためなので、考慮すべきと捉えています。

## 7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

学内におけるFD研修会については毎回参加しています。またこれについてのアンケートは毎回返答をしています。

## 8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

短期的な目標としては、英語各科目の資料について、特にオリジナルの記述の部分は視覚的により見やすいものを作成していくことを目標としたいです。長期的には、英語学習を楽しくかつよく理解できるような授業の展開を心掛けたいです。楽しい意見は多いけれども、内容への理解度をより上げる、ことが長期的な目標であると思っています。また、研究科の授業も5科目ありますが、こちらも大学院進学者が多く、また受講者もそれなりにいるのでよりよい授業を目指したいと考えています。

## 9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

シラバス、各種の授業資料が根拠となります。